# うるま市内の国・県・市指定文化財

## 石川地区の文化財

### ■国指定文化財

**伊波貝塚**　史跡　指定年月日：昭和47年5月15日

明治37年（1904年）に発掘された縄文時代の石川市のオスロンチップ貝塚を発見し、大正9年に大山柏氏によって発掘調査がおこなわれ、伊波貝塚が発見されました。石川市指定の南側の貝塚群と区別するため縄文、神遊跡の中で日本最も古い時期に相当するとされ遺跡として有名です。伊波貝塚から出土した土器は、深鉢形で平底、胴部から口縁部にかけて外反しており、伊波式土器と称され縄文時代後期を代表する標準土器として知られています。

**伊波城跡**　史跡　指定年月日：昭和36年6月15日

伊波城跡は、北側の断崖を除いた東、南、西側に自然石を無加工のまま積み上げた野面積み（のづらづみ）の石垣を持ち、一重だけの城郭をもつ平面広島方平城（だんごや）式に属しています。このグスクは、13世紀に伊波按司によって築城されたと伝えられています。グスクからはグスク時代の土器や外国産陶磁器等の他に先史時代の土器等も検出されたことから、先史時代から居住していたことが明らかになりました。

グスク内には中森城之跡（北の城）・森城之跡・三森城之跡（クワブガマ）の遺跡群（のこされた城の跡）があり、現在もクワモとして崇められており、字伊波のクヤーガの祭祀行事等がグスクを守り行われる。聞合各地から多くの参拝者や見学者が訪れています。

**三線真型**　有形文化財（美術工芸品）　指定年月日：平成6年3月15日

琉球古典音楽の友軍、幸地亀千代（1896～1969年）が使用し、戦後沖縄の名器の1つとして伝えられています。全長1176.6cm、材質はトックチャ（ウクチャ）の前後入りの上質材で、棹の太さは細く、三線の代表的型の一つで琉球型と称される。

**東恩納平良家所蔵の漁具及び民俗資料**　有形民俗文化財　指定年月日：昭和56年10月15日

屋号「当（トウ）」と称される石川東恩納の平良家が所蔵する、同家の長男の葬儀の際に使用されたと伝えられる漁具です。

・四流網（しゅうりあ）：漁業時の先端に掲げる旗です。・大地網（くしざしの総称）：右側の内の3本（行遊（ぴかぐくれん）、ぴかぐ（遊体）、ぴかぐ（遊体））は、ぴかぐ（遊体）は、ぴかぐ（遊体）は、ぴかぐ（遊体）